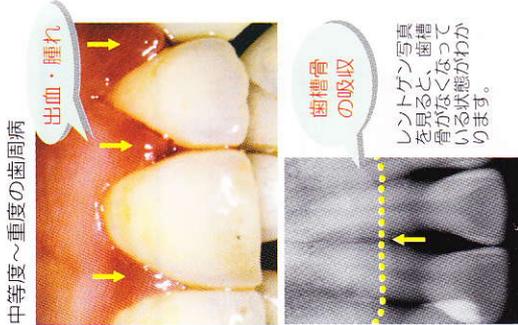
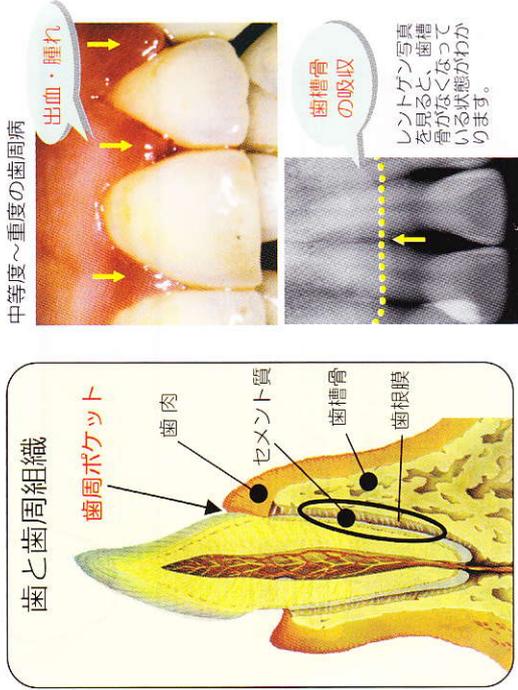


歯周病は慢性疾患です

歯周病は、歯と歯肉のすき間（歯周ポケット）が深くなり、歯肉、歯根膜（歯のクッション）、歯槽骨（歯の土台）などの歯周組織に炎症が起さる慢性疾患です。

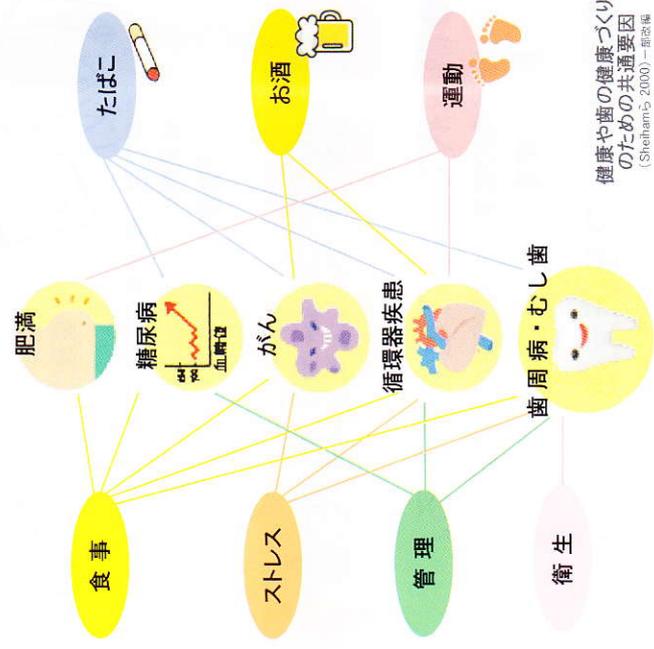


レントゲン写真を見ると、歯槽骨がなくなっている状態がわかります。

共通生活習慣リスク

糖尿病を始めとした生活習慣病は、共通する生活習慣が関連し合いながら、発症・悪化していきます。これを「共通生活習慣リスク」といいます。

よりよい生活習慣は、これらの生活習慣病を予防することができます。



健康や歯の健康づくりのための共通要因 (Sheiham's 2000) 一部改題

歯周病の進行・悪化を防ぐには、**毎日のセルフケア**が大切です。
慢性疾患であるため、**歯科医師と歯科衛生士による長期的な専門的ケア**も必要です。



歯周病は糖尿病の合併症のひとつです



●歯周病の症状（セルフチェック）

- 歯肉から出血（または痛み）がある
- 歯肉が腫れている
- 歯が浮いた感じがする
- 歯と歯の間に食べ物がよくはさまる
- 朝起きた時に口がネバネバする
- 歯がのびてきた
- 歯と歯の間にすき間ができてきた
- 歯並びが変わってきた
- 歯肉を押すと膿が出る
- 指で動かすと歯が揺れる
- 硬い食品が噛みにくくなった

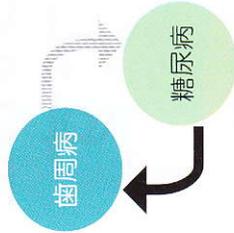
★該当する項目がひとつでもあれば、歯周病の疑いがあります。

軽度 → 重度

歯周病と糖尿病の関係

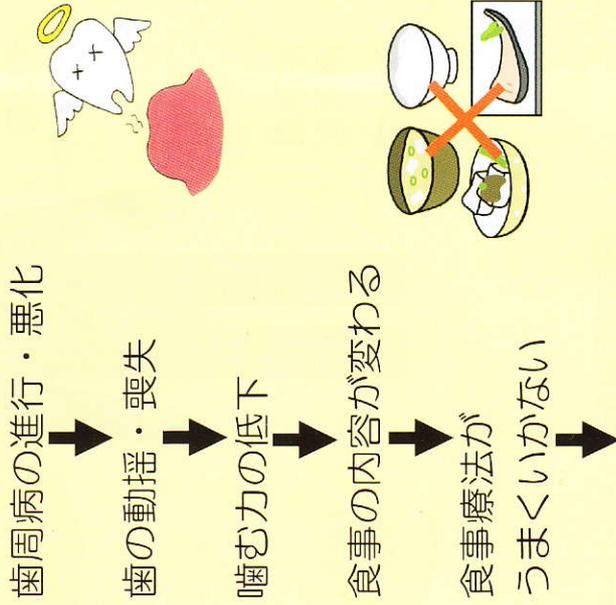
歯周病は、糖尿病と深い関係があることから、糖尿病の合併症のひとつとされています。

高血糖が続くと、免疫機能が低下し、歯周病が発症しやすくなり、進行・悪化が早くなります。



最近の研究では、重度の歯周病がある人は、糖尿病が進行しやすいことも報告されています。
(森田ら、愛知学院大学歯学部, 2011)

糖尿病の人が歯周病にかかると!?



合併症を管理するために

歯科を受診しましょう!



合併症を発症すると糖尿病の治療が困難になるため、合併症の管理がとてとても大切です。

愛知県では、愛知県歯科医師会の協力のもと、糖尿病の主治医と歯科医師が連携し、合併症の管理を支援しています。

歯科で行う合併症管理

1. 歯周病の検査

○歯周ポケットの深さの測定やレントゲン撮影などにより、歯周病の進行程度を検査します。



糖尿病連携手帳を持参された場合は、検査結果を記録します。

2. 歯周病の治療

○歯周ポケット内の歯石を取るなど、歯肉や歯周組織の炎症を抑えるための治療を行います。

3. セルフケアの支援

○個人に合ったブラッシング方法や歯間部清掃用具の使い方、生活習慣などのアドバイスをします。

デンタルフロス



4. 定期管理の支援

○歯周病が進行・悪化しないよう、年3回以上の歯科健診などにより経過観察を行います。



歯科衛生士がお手伝いします!

受診するときの注意

●糖尿病であることを伝える。

糖尿病の状態は、歯周病の治療に大きく影響します。

●検査データを伝える。

糖尿病の主治医からの指示や、服薬状況、最近の検査データをお伝えください。また、歯を抜くなどの観血処置をする際には、血糖コントロールが不可欠です。

ご持参ください!



糖尿病連携手帳
お薬手帳
検査データ など

内科(病院)を受診した際には、歯周病の検査結果と治療内容を主治医に必ずお伝えください。